

全酪連会報 2

2020 FEB No.653



若手後継者の本音／
林鮎美さん

令和元年度
全酪連会員職員研修会 後編

品質保証室だより／
いま給与した配合飼料、
古くなっていませんか？

日本酪農見て歩紀／
人見牧場
栃木県那須塩原市

酪農トピックス／
全国農協乳業協会
「令和元年度 経営者研修会・意見交換会」
開催（本所）ほか

人事異動



www.zenrakuren.or.jp/business/kobai/calftop/

 全国酪農業協同組合連合会

牧場概要

富山県入善町。富山県の北東部に位置する町です。北は日本海に面しており黒部川が形成した広大な扇状地を中心に広がっています。特産品として昭和58年に町の花としてチューリップが制定されました。また南には登山をする人なら一度は憧れる立山連峰（北アルプス）が遠くに聳え立っています。風光明媚な場所です。

林牧場（林鮎美さん）は富山県入善町に位置し、入善町酪農農業協同組合（太田幸由代表理事組合長、生乳出荷戸数5戸）に所属しています。

牧場沿革

鮎美さんの曾祖父は高度経済成長期、都会のコンクリートジャングルの中、日本経済を支えて働いていましたが、ある時、地元富山に戻る事を決心して入善町で乳牛を飼い始めました。これが林牧場の歴史の始まりです。その後、息子である鮎美さんの祖父が次男ということもあり、実家を出てすぐ近くの場所です。その後母と父の純也さんと酪農を始めました。その後は母のはるみさんと二人三脚で牧場を運営して来ました。

平成29年純也さんが若くして他界。残されたはるみさんは鮎美さんの祖母の靖子さんに手伝ってもらいながら酪農を続けてきました。靖子さんも高齢のため平成30年10月には酪農に携わるのが難しくなり、それ以降ははるみさん

今回は、富山県入善町 林牧場の後継者 林 鮎美さんにお話を伺いました。

が経営を1人で切り盛りして来ました。

そのような状況の中、鮎美さんが実家の酪農を守るために令和元年7月、今までバイトから数えて7年近く務めていた会社を辞めて酪農経営に専念することになりました。今は親子で酪農を営んで現在に至ります。

家族構成

祖母の靖子さん（75歳）、母のはるみさん（49歳）、長女の鮎美さん（25歳）、長男の将也さん（22歳）現在、実家を離れて新潟の大学で4年。地元企業に内定が決まっています、父の弟（37歳）の5人家族です。

労働力

母のはるみさんが酪農全般に携わっています。鮎美さんは哺育管理（哺乳担当）、牛舎内の清掃、搾乳時の給餌担当をしています。

特徴

現在、経産牛17頭、育成牛3頭、全酪連預託事業で6頭北海道に上牧しています。牛舎は対尻式繋ぎ牛舎です。

育成に関しては原則、預託事業を活用しており、取材したこの日も上牧待ちの育成牛が3頭いました。母のはるみさんは30年近く前から和牛繁殖を行っており、交雑種の育成管理も含めて育成技術は非常に高いのが特徴です。

就農までの経緯、就農のきっかけ・理由

鮎美さんの酪農の経験については実はすごく長く、3歳の頃には既に哺育作業の手伝いをしていました。小学校に入ってから、平日は下校したら牛舎に入り作業全般の手伝いを行っていました。また春休み、夏休み、冬休みの長期休暇の時は早朝から哺育作業の手伝いをしていました。中学校になると学業に専念するために酪農の手伝いは減りましたが、それでも休日にはなるべく作業の手伝いをしていました。

大学卒業後はバイト時代からお世話になった地元大手企業にそのまま就職し、周りからの信頼を得て仕事に励んでいましたが、平成



林 鮎美さん



牛舎全景

29年に純也さんが他界してから、はるみさんが酪農を廃業せずに続けている姿を見て、大学まで出してもらった両親に感謝の念、そして酪農家戸数の減少した富山で酪農の火を消してはならないと思い、バイトから始めて7年間続けてきた仕事を辞めて酪農を引き継ぐ決心をしました。

今はまだはるみさんの下について教わるのが沢山ですが、毎日牛に囲まれて仕事に励んでいます。

現状と酪農に対する思いについて

【経営を取り巻く環境についての認識】

今の土地で何十年と酪農を経営していますが、時の流れとともに周りには住宅地が立ち並び、以前と違って環境対策には力を入れています。特に臭気対策には注意を払っています。

富山県内において酪農家戸数は50戸を切る状況となっています。この入善町酪農協管内においても生乳出荷戸数は5戸と非常に厳しい状況となっており、鮎美さんの住んでいる地域で酪農を絶やさない。それが使命だと考えています。

富山県でも酪農に対する補助事業はあり、林牧場ではカウコンフォート事業に参加し、育成牛の飼養管理向上に努めています。

今後・将来の目標について

まずは出来る限り酪農を継続したいと考えています。富山県でも非農家の方が新規就農を試みようとすると幾つもの難題課題を解決しなければ

若手後継者の本音

Vol.42

【経営概況】

所 属 入善町酪農農業協同組合(太田幸由代表理事組合長)
 家族構成 祖母の靖子さん、母のはるみさん、長女の鮎美さん、長男の将也さん、父の弟
 飼養頭数 経産牛:17頭、育成牛:3頭、全酪連委託事業で上牧中:6頭

「日本」というブランド、 国産牛乳を残していきたい!



林はるみさん(左)と林鮎美さん(右)



愛牛と共に



牛舎内



稲WCSを給与しています

ればなりません。

鮎美さんは酪農家の娘に生まれて、今こうして当たり前のように酪農が出来るのは素晴らしいことだと仰っていました。

一度酪農を廃業したら二度と再開することは出来ないかもしれない。まずは現状維持を目標に頑張るそうです。その上で鮎美さんが、子供の頃に両親の手伝いをしてきた全盛期、牛舎が全部搾乳牛で埋まっていた頃のように頭数を戻したいと考えています。

更に夢は広がります。林牧場を新規就農を目指す若者のために実習(受人)牧場にしたいとも考えています。

ご家族へのメッセージについて

鮎美さんのご両親はこれまで長年酪農に従事し、鮎美さん、そして、将也さんを立派に育てられました。大学まで行かしてくれた両親に鮎美さんは大変感謝しています。純也さんは若くして他界しましたが、はるみさんと2人で酪農の火を消さずに頑張っていきたいと語っていました。

全国の若手後継者の皆さんへ一言!



今、全国各地で天災が起きています。天災により酪農を廃業される方もいると思いますが、「日本」というブランドを残したい。国産牛乳を残したい。富山県産牛乳を残したい。そのためにもやっぱり酪農は地元に根付いていかなければならない。若手後継者の皆さん、住む環境によって酪農の環境は大きく変わりますが、皆で頑張っていきましょう!

全酪連会員職員 研修会

後編

東日本会場

令和元年11月15日(金)

東京八重洲ホール

(東京都中央区)

31名参加

西日本会場

令和元年11月22日(金)

オリエンタルホテル福岡博多ステーション

(福岡市博多区)

17名参加

先月号に続き今月号では「国内生乳需給に広がる『カオス(混沌・無秩序)』を読み解く」酪農ジャーナリスト、講師の稲葉武洋氏にご報告を頂きます。

旧年ですが2019年11月に全酪連の会員実務者研修会に講師としてお声がけいただき、東京(15日)、福岡(22日)の2会場で各1時間半にわたり「国内生乳需給に広がる『カオス』を読み解く」という、少々物々しいタイトルで最近の酪農情勢を講演しました。難解な話題提供だったので、講演要旨の執筆もご依頼いただき次第となり、非常に簡略ですが、下記に講演の概要を紹介します。

講演は大きく「改正畜安法施行後の生乳自主流通拡大をめぐる動き」「自主流通の拡大とともに各地の指定生乳生産者団体との間で、

生乳の取引契約をめぐる生じている、いわゆる“いいとこ取り”をめぐる「関係法律上の考察」、さらに視点を変えて「仮に現状ある生産基盤の劣化がさらに進んだ場合、国産生乳の需給や供給にどんな構造課題を生じるか」。私の運営する会員制産業情報サイト(<https://dairyreport.jp/>)の取材成果を基礎に話しました。

19年の産業情勢を見渡せば、改正畜安法の施行2年目を迎え、大規模生産者を中心に生乳の自主流通はさらに広がりを見せ、その中で前年から一段と色濃い変化とは、自主流通生産者における、指定団体

の生乳共販との「二股出荷」の拡大でしょう。この中では、(株)MMJに代表される民間生乳卸会社にとっても、指定団体と同様、毎年のように取り扱ひ数量が変動する、新たな環境を迎えたと言えるそうです。

19年の業界では、国内有数の大規模生産法人の系列牧場が新たに二股出荷を開始した動きや、一部の大規模生産者で民間対指定団体の出荷比率で

「9対1」などという極端な二股出荷も現れたことが注目を集めました。また西日本ではデイスカウントスーパードメインによる低価格訴求牛乳の供給拡大に呼応し、新たな



▲ 講師：稲葉武洋氏

生産者グループが活動を活性化させる様相も見え始めたことが注目されます。これらと若干異なる問題として、大規模生産法人による指定団体への「直接出荷」も、生乳共販界

を揺さぶる「新たな問題」として急浮上した年でした。

制度改革を経て、大規模生産者を中心に出荷先選択が流動性を強める中、19年には一部指定団体で、年度期中の一方的な出荷先の変更

に違約金的なペナルティを課す「生乳共販維持負担金」を新規導入する動きも注目された一方、主流通生産者が年度途中から全量の出荷先を指定団体に回帰させるケースもあり、他方で勢いづく主流通界では、生乳の風味問題をめぐ

るトラブルも目立ち、取引先乳業や生乳卸会社などを含め「乳質検査」を強化する動きも注目されました。

こうした取引環境の変化も背景に、各地の農協や指定団体で様々な組織問題が勃発したのも、19年の注目事であり、専門農協の組織人には大変多難な時代ですが、あらためて農協の「存在意義」に、会員・組合員の「正当な理解・評価」を得ていくか。その実践が問われる時代に入った、という話もしました。

指定団体を中心とした生乳共販界では、出荷農家の全体利益を損ねかねない、自主流通生産者の要望を「拒否」できるとは、改正畜安法の制度課題としてさらにクローズアップされましたが、行政側はすでに制度環境を整えてお

り「拒否できるかどうか」は「毅然とした態度の問題だ」という解説にならぬ解説を発信しています。本質的に加工原料乳生産者補給金制度は「生乳取引」を規制する法的効力に乏しく、共販側における生乳受託契約の「拒否」をめぐるのは、むしろ「改正農協法」の方が、手足を縛る厳しい法的制約を課している。そういう考察も紹介しました。

他方で自主流通界でも、上述の乳質管理をめぐる問題だけでなく、輸送業界における人材確保などを背景に、生乳輸送上の制約が強まる中で様々な課題が意識され始めています。

TPP11、日欧EPA、日米貿易協定が発効し、国際化が本格的に進展し始めた中、国内の生乳流通は、将来的な生乳需給の緩和リスクを念頭に、極めて不透明かつ複雑な判断を迫られ始める一面もあり、2020年の国内はさら

に様々な動きを見せそうです。しかし現状は決定的なまでの「生乳不足」が構造課題として横たわります。酪農乳業界を挙げて「生乳生産基盤の維持・回復」に最大限の産業努力が傾注され、北海道

での顕著な生産回復を背景に、19年の統計上は全国的に「生産回復」が見えそうです。しかし都府県に限れば、飲用向け生乳の不足を脱する見込みは無く、その回復が本当に達成されるか。乳業界は自らの経営戦略の根幹的関心をもって注視しています。

不謹慎な想像ですが、仮に都府県で生乳生産がさらに減り続ける場合、常に生乳不足の都府県と、常に余剰リスクにさいなまれる北海道という「まるで異なる2つの国」のような、不思議な市場環境を迎えるのではないかと。そんな推論も紹介しました。そうした国内環境に本格的に陥った場合、国の制度・政策の根本的な立ち位置にも大きな変更を迫り、それぞれの市場で現れる「希望と課題」とはどんなものか。そんなお話もさせていただきました。

当研修会のご質問・資料請求
のご希望がございましたら、

**全酪連 総務部
組織対策課
(03-5931-8003)**

もしくは各支所指導組織課
までお問合せください。

いま給与した配合飼料、

古く なっていませんか？

全酪連は会員並びに生産者の皆さんに購入頂く配合飼料について、最良の製品供給を目標として日々、品質管理に取り組んでおります。

飼料用タンク内の雨漏り、飼料搬送用オーガー

- 第1位：カビ（81件 全体の54%）
- 第2位：その他異物の混入（11件 全体の7%）
- 第3位：鼠害虫害鳥害（9件 全体の6%）
- 第4位：発熱（8件 全体の5%）
- 第5位：臭い異常（7件 全体の5%）
- 第5位：粉化（7件 全体の5%）
- その他：固化、容器不良、水濡れ、分離、嗜好性異常、色調異常など

149件の中には、倉庫内での紙袋破損や

平成30年度の149件の発生内容は、多い順に以下のような内訳となっております。

【表1】

単位：件

分類	配合飼料
平成26年度	173
平成27年度	132
平成28年度	163
平成29年度	138
平成30年度	149

出典：全酪連内部会議資料

表1は、平成30年度までの過去5年間に報告いただいた配合飼料のクレーム件数をまとめたものです。

飼料用タンク内の雨漏り、飼料搬送用オーガー

つまり季節要因（温度と湿度 日中の寒暖差）

【表2】

単位：件

4月	1
5月	4
6月	8
7月	16
8月	14
9月	16
10月	9
11月	7
12月	4
1月	2
2月	-
3月	-
合計	81

さらに81件のうち、工場出荷日の確認が取れている69件についての製造からカビ発生までの

の経年劣化による雨水の浸入などの不注意・施設の老朽化による偶然発生したものも含まれていることから、カビに対する対策が如何に有効かお判りいただけると幸いです。

カビ対策として全酪連の各飼料工場は、夏期間中は飼料中の水分含有量を下げするために、工場での水分除去時間を長くして、最大の注意を払っております。結果、81件のカビ発生うち、製造方法にカビ発生の原因が認められたものは、1件でした。

81件発生したカビについて、原因を調べるためにもう少し検証します。まず各月の発生件数は表2の通りでした。

単位：日

【表3】

4月	45
5月	29
6月	36
7月	37
8月	50
9月	62
10月	66
11月	34
12月	39
1月	40
2月	-
3月	-

これは季節要因によってカビのリスクが高まるにもかかわらず、8～10月においては、製造後の日数が50日以上経過しているものにカビの発生件数が多いことを示しています。

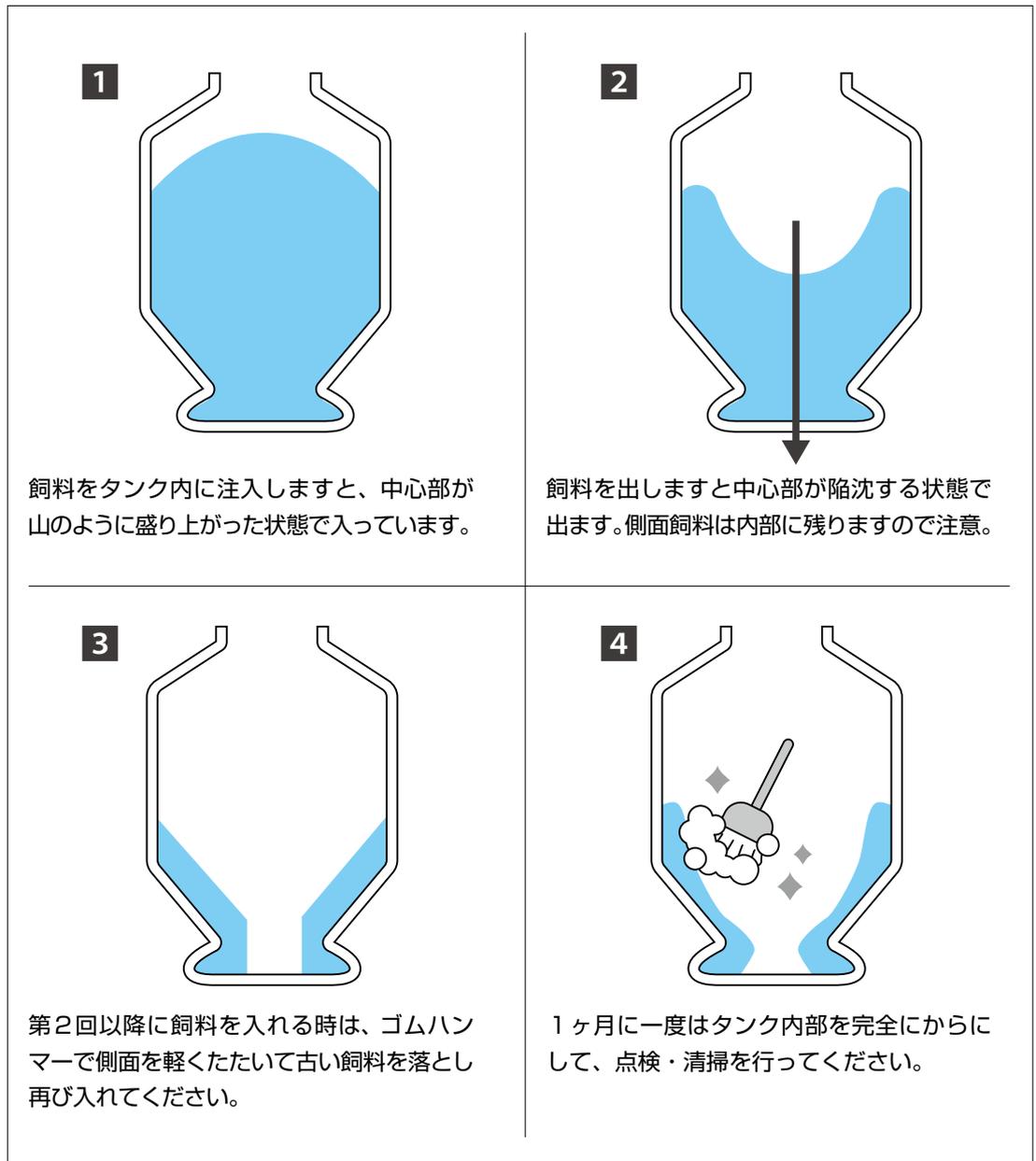
注1) 10月については朝晩の冷え込みが強くなることから、結露によるカビ発生のリスクと在庫日数の相乗効果によるものと予想

注2) 表2で発生件数の少ない月は、データの誤差の範囲が大きいので要注意。

従って、特に夏季の間のS P、倉庫、農家の倉庫や飼料タンク内の在庫期間をいかに短くするかで、カビのリスクを抑えることが可能になります。

もちろん夏季の配送は、会員並びに運送会社の皆様のご配慮により小ロットで配送回数を増やすなどの対応を取られているところが多いとの報告が届いておりますが、工場／本会 S P／会員倉庫／農家の飼料タンクの流通経路全体での取り組みが必要となります。

また、飼料タンク内で、飼料が長期残留してしまうことがあります。夏季を前にしたタンク内清掃の取り組みが有効と思われる。



令和2年度の配合飼料のカビによる生産者の損失を未然に防ぐためにも

① 飼料注文、配送対策

② S P、倉庫での保管方法と保管期間

③ 飼料タンク内の清掃時期と、清掃のための配送タイミングの調整

について、今の時期から関係者で協議することが有効ではないかと考えます。

出典：東京支所飼料タンク清掃要請資料

見と歩紀

No. 321

人見牧場
栃木県那須塩原市

地域の発展とともに、親子で切り開く酪農経営



栃木県那須塩原市



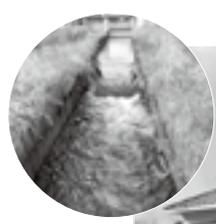
▲ 看板を背に家族写真(後列左から勇さん、トミイさん夫妻、孝允さん、雅美さん夫妻、前列インドネシアの研修生3名)

今回のご訪問させて頂いた人見牧場は、栃木県の北部、那須塩原市にあります。所属する栃木県酪農業協同組合(石川正美代表理事組合長)は、酪農家戸数186戸、年間出荷乳量は、70,259t(平成30年度累計)となっております。

那須塩原市の概要と酪農発展の歴史

那須塩原市は、東京から150kmの栃木県北部に位置しています。市の面積の半分を山岳部が占め、那須火山帯に属した湯量豊富な塩原温泉郷や板室温泉、三斗小屋温泉をはじめ、箒川沿いの四季折々に彩をみせる塩原溪谷や沼ツ原湿原を代表とした観光の名所となっております。残り半分は、北側に那珂川、南側を箒川に挟まれた日本最大級の扇状地那須野が原が広がり、人口約11万6,000人が生活する栃木県北部最大の都市です。

那須野が原は那珂川と箒川との間に形成された複合扇状地で、その面積はおよそ400km²にも及び、そのうち100km²を占める那須西原、東原は、江戸末期までは水利の悪さから農耕には不向きな不毛の大地とされ、ほとんど住む人がいない原野でした。明治に入り、西洋列強に対抗し、殖産興業政策を掲げた政府に開拓地として注目され、明治維新を牽引した元勳や明治政府の要職を歴任した華族が、



▲ 那須疏水



▲ 道の駅「明治の森・黒磯」の旧青木家那須別邸(国指定重要文化財)



▲ 人見牧場全景

私財を投げうって次々と大農場を開設します。その後、現在では日本三大疏水に数えられている「那須疏水」が開削されます。これによって那須野が原全域へ農業用水が供給されるようになり、鉄道や国道を引き込み、農場内は正確に区画整理されて、開拓に携わる移住者を迎え入れました。この華族農場に始まる開拓事業は、明治から昭和へと時を経て、戦後の開拓や、地元の有志に引き継がれました。明治期から導入されていた牧畜の主流は、羊から乳牛へと変わり、技術革新による生産性の向上でその規模は徐々に拡大していき、やがてこの地は生乳生産量本州一を誇る大酪農地帯に成長し、現在に至ります。

人見牧場の歩み

人見牧場のある那須塩原市青木地区は、長州出身の青木周蔵子爵が開設した青木農場が地名の由来になっています。人見牧場の先祖が、大工としてこの地に開墾時の初期に、入植したそうです。その後、孝允さんのおじいさんが、昭和30年に乳牛1頭を導入したことから牧場の歴史が始まっています。その後、4代目のお父さんの勇さんが、昭和53年に30頭の対尻式の繋ぎ牛舎を建設し、規模拡大と共に経営継承しました。平成7年には、1・1・2頭のフリーストール牛舎とつなぎ牛舎を利用した4頭ダブルアプレストパーラーを建設、更には全国的にも珍しい省力化に適した、自動給餌システムを導入しました。その翌年には自動堆肥化システム、育成・乾乳牛舎を完成させ、同時に全酪連の北海道販売預託事業を開始します。その後、孝允さんの就農を期に、ロータリー式糞乾施設、フリーストール牛舎の増築、14頭ダブルパラレルパーラーの整備、全酪連の矢吹で行われている初生牛預託を開始するなど、規模拡大をくりかえして、今年、お父さんの勇さんから孝允さんへ事業継承を行いました。

人見牧場の概況

家族構成は、ご両親の勇さんとトミイさん、経営主の孝允さんと奥さんの雅美さんと3人のお子さんがいらっしゃるようです。現在従業員とパートさんを1名ずつ、インドネシアからの研修生を3名雇用し、人見牧場の大きな戦力となっています。主に勇さんが、徐糞・堆肥・乾乳などの外回りを担当し、孝允さんが搾乳、飼養管理、繁殖管理、事務処理などの酪農全般のメイン作業を行っています。30haの圃場に、春はデントコーン、秋はライムギの作付けを行い、地下サイロで貯蔵し、通年給与できるように調整しています。また、経産牛250頭をフリーストール牛舎2棟に、搾乳牛は4群（フレッシュ群・初産群・高生産群・中低生産群）、乾乳を2群（乾乳前期・乾乳後期）に牛群を編成して、こまめに飼養管理しています。育成後継牛は全面的に本会の預託事業を利用しており、生後3日齢から上牧し、分娩3ヶ月に下牧するシステムを構築し、後継牛以外の育成牛は、哺育期間には、ペンの管理を1か月行い、その後、自動哺乳機を利用し、市場出荷まで管理しています。また、和牛農家さんと

協力しながら借り腹も行って受精卵移植も行っています。搾乳は孝允さんと従業員とインドネシアからの研修生と一緒に、14頭のダブルパラレルパーラーで行っています。繁殖管理は、信頼できる開業獣医さんと相談しながら、孝允さんが管理しています。現在の直近の牛検では、日量7t、1頭当たりの乳量33・5kg平均、乳脂肪3・75%、乳蛋白3・35%、無脂固形8・83%、体細胞20万という優秀な成績をキープしています。



▲ 自動給餌システム

人見牧場の特徴

人見牧場の経営の根底には、勇さんの理想である合理的かつ省力的な酪農をするため『252経営』があります。これは、夫婦2人で、5時

間労働、2千万円以上の所得を目標にしています。この考えにたどり着くには並大抵ではない苦労があったと勇さんはおっしゃっています。規模拡大した当時は、雇用する余裕もなく、100頭以上の経産牛を勇さんと奥さんのトミイさんと2人で、切り盛りしてきたそうです。現在では、多くの従業員や研修生にも恵まれ、息子の孝允さんがこの酪農を継いでくれたことが両親にとつて、何よりの幸せとおっしゃっていました。だからこそ、ひとりではできない酪農を、家族のこと、従業員のことを、経営者が一番に考えてあげることが大切で、良いと思ったことを躊躇せずに行っていくことが、安定した酪農経営を継続するためには、重要だとおっしゃっています。規模拡大を図る度に、周りの多くの方々に助けて頂いたとおっしゃっています。

その勇さんの理念を孝允さんなりにこれからの酪農を考えたところ、『きかない・きつい・くさい』といわゆる3Kと言われる酪農のイメージを、酪農の魅力が家族とともに価値あるものにしていきたいと、『3Y酪農』の実現し、継続していくことでした。3Yとは、人にやさしい、牛にやさしい、環境に



▲ 14頭ダブルパラレルパーラー

やさしいということです。

人見牧場では、規模拡大による収入の確保や、効率の良い生産性の向上を実現するために、様々な投資をしてきました。平成7年に導入した全国的にめずらしい自動給餌システムは、乾草切断・濃厚飼料を計量し、二軸混合機でエサを混ぜ、サイレージとともにベルトコンベアで2棟の牛舎に給餌機を使って運搬されるシステムです。これで人間の給餌作業はほぼ0時間となり、労力低減につながっています。併せて、多群管理、多回給餌、夜間給餌、乾物摂取量増により、牛にもやさしい成績向上を実現しています。

次に後継牛を全面預託することで、経費は増えますが、自家育成では、目が行き届かず初生牛の事故率が高かったため外部委託を行い、事故率を低

減し、育成管理の労働力の削減と育成牛舎の建設や維持費、治療衛生費の削減、更には糞尿処理の労力減少も実現すると共に雌雄判別精液を積極的に利用することで後継牛が確保でき、本会の矢吹で行われている強化哺育による管理も、下牧してきた牛を見れば、満足できる結果だとおっしゃっています。

日々の搾乳作業は14頭ダブルパラレルパーラーを整備したことで、1牛群を2回転で効率よく搾乳できる様になり、200頭の搾乳でも約3時間弱で終わることが可能になりました。待機場での待ち時間減少や搾乳時の過搾乳抑制など、牛への負担を軽減することができているそうです。将来を見越して、今後の300頭規模に増頭しても十分対応できるようになっています。

また、循環型酪農を実現するため、堆肥の7割は圃場に還元、3割は戻し堆肥として利用し、資材コストの低減を図りながら、近隣の住民の方々にも配慮を怠らず、パーラー排水処理施設や糞乾システム導入したことで、臭いもほとんど感じず、害虫の発生も抑えられ、牧場見学に訪れる方々から、『牧場のおいがほとんどなくて、牛

も綺麗で落ち着いている』とおっしゃっていたに似ています。

人見牧場の今後について

孝允さんは、ご両親の背中を見て育ってきたとおっしゃっています。これからは、経産牛300頭の規模拡大をすすめながら、ご両親の牧場への思いを大切に、効率の良い生産性向上によって得られた時間を、従業員との貴重なコミュニケーションや、家族と過ごせる時間を大切にしていきたいと考えています。また、地元農協の青年部長を務め、地域との交流も積極的に行い、酪農の魅力を発信するために、地元奥さんたちとチーズづくりにも取り組んでおり、いずれは地域に愛される6次産業化に向けて取り組んでいきたいと語られました。

今回、この原稿を作成するにあたり、人見牧場のご家族の皆さんや、那須塩原市役所の生涯学習課の職員の方々に、お忙しい中、多大なるご協力を賜りました。人見牧場の今後の益々のご発展と地域の酪農業界を大いに盛り上げていけるよう、微力ながら精一杯頑張っていきたいと思っております。本当にありがとうございます。

原稿募集

「酪農トピックス」では皆様からの記事を募集しております

共進会、B&W、酪農祭り、親睦スポーツ大会といった催事情報から組合住所の変更や移転等案内情報、そして直営店情報や組合の自慢情報まで、酪農トピックスでは会員の皆様からの原稿を募集しております。本コーナーは会員の皆様の情報交換の場です。ぜひご活用ください。

送付先 皆様のお近くにありますが本会支所までご送付・ご連絡ください。

■札幌支所

〒060-0003

札幌市中央区北3条西7丁目1 酪農センター5階
tel. 011-241-0765

■仙台支所

〒980-0021

仙台市青葉区中央1-7-20 東邦ビル3階
tel. 022-221-5381

■東京支所

〒151-0053

東京都渋谷区代々木1-37-2 酪農会館4階
tel. 03-5931-8011

■名古屋支所

〒460-0008

名古屋市中区栄1-16-6 名古屋三蔵ビル3階
tel. 052-209-5611

■大阪支所

〒532-0011

大阪市淀川区西中島5-14-10 新大阪トヨタビル6階
tel. 06-6305-4196

■福岡支所

〒812-0016

福岡市博多区博多駅南1-2-15 事務機ビル7階
tel. 092-431-8111

本所発

全国農協乳業協会
「令和元年度 経営者研修会・意見交換会」開催

酪農部が事務局を担っている全国農協乳業協会（会長：橋本光宏日本酪農協同株式会社代表取締役社長）は、令和2年1月16日(木)にKKRホテル東京において「令和元年度 経営者研修会・意見交換会」を開催しました。

研修会では、農林水産省生産局畜産部牛乳乳製品課乳製品調整官の金澤正尚氏を講師に「最近の酪農乳業をめぐる情勢について」、及び一般社団法人Jミルク常務理事の内橋政敏氏を講師に「提言 力強く信頼される持続可能な産業を目指して」を演題として

講演いただきました。両講演では、最近の酪農情勢をはじめとして、改正畜安法2年目を迎えるの課題や補正予算の概要、Jミルクの基盤対策の概要等が報告され、北海道から九州までの全国の会員から17名の経営者が集まり、熱心に講演に向き合っていました。

全国農協乳業協会では経営者層を対象とした研修会の開催をはじめ、製造技術、販売・商品開発をテーマとした各種研修会を開催して協会会員の人材育成の推進に継続的に取り組んでいます。(I.H)



▲ 農林水産省 金澤調整官



▲ Jミルク 内橋常務理事



東京
支所発

東毛酪農「理解醸成活動」を開催

東毛酪農が業務提携会社と共に運営されている「東毛酪農 63℃」スイーツショップ 八景島シーパラダイス店にて、令和元年12月1日(日)、コットンランチバックとチラシを配布し酪農の理解醸成活動を行いました。

「東毛酪農 63℃」スイーツショップ 八景島シーパラダイス店には、2018年10月の開店から昨年9月までの来店は84,596組（月平均7,050組）の消費者がお越しになられているとのこと。

名古屋
支所発酪農生産研究会獣医師部会 主催
「令和元年度 第2回研修会」を開催!

12月14日(土)全酪連名古屋支所（愛知県名古屋市）において、酪農生産研究会獣医師部会（部会長 五月女拓哉氏）主催による「第2回研修会」が開催されました。

獣医師部会は行政、農業共済組合、開業の獣医師が会員となって構成されている部会です。

この度の研修会は第1回研修会に引き続き「運動器疾患Ⅱ～後肢ナックルの整復～」と題して獣医師部会 元部会長の山本幸夫氏（知多大動物病院）による講演が行われました。

ナックルや異常歩行は適切な処置により整復が可能であり、大切な牛を長く飼養する重要な処置となります。また、デモンストレーションとしてナックルケアの作成やキャストの取り付け方を行い、出席した会員の方々からは様々な質問が出てとても活発な研修会となりました。

本日の研修会が会員の方々のお仕事に役立つ様願っております。（S.S）



▲ 五月女部会長 挨拶



▲ 山本講師（知多大動物病院）



▲ 研修会風景

福岡
支所発『～牛乳で日本を元気にしちゃうばい～』
九州酪農青年女性会議
「令和元年度 指導者研修会」を開催！

1月22日(水)、福岡県福岡市のWITH THE STYLE FUKUOKA ウィズザスタイル福岡において、九州酪農青年女性会議（大山雅行委員長）主催の「令和元年度指導者研修会」が開催されました。

今回の指導者研修は、「～牛乳で日本を元気にしちゃうばい～」をメインテーマとし、九州沖縄各県から105名の酪友が集結しました。



▲ 福岡県農林水産部
永末畜産課長

開会式では、九州酪農青年女性会議、大山雅行委員長の主催者挨拶の後、福岡県農林水産部畜産課長の永末誠二様、ふくおか県酪農業協同組合代表理事組合長の尾形文清様よりご祝辞が披露されました。



▲ ふくおか県酪農業協同組合
尾形組合長

今回の研修会は「スマート農業実証事業の概要と畜産分野のスマート化技術について」と題して、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 企画戦略本部研究推進部

スマート農業実証事業推進室 畜産体系専門プログラムオフィサー 平子誠先生と鹿児島大学 農水産獣医学域 獣医学系 共同獣医学部 獣医学科 教授 窪田力先生を講師にお招きしました。

講演では、畜産分野での先端技術を活用したスマー

ト化技術の概要と、酪農において進められる全国3例の実証取組が紹介され、ロボット搾乳機器だけでなく、高効率な圃場管理やリモートセンシング技術やIoT技術によるビックデータの活用によりリアルタイムな個体情報を把握し、圃場から生乳生産に至るまでの先端技術を活用する事例、生産性向上の可能性が紹介されました。

先日開催された、全国酪農青年女性酪農発表大会で酪農経営発表の部で最優秀賞を受賞した（農）霧島第一牧場での実証実験も進められており、西南暖地ならではの取り組みについても、興味深いお話となりました。

講演後には意見交換会が行われ、参加者から「スマート化に取組む適正な規模は？」「海外の技術で国内応用可能なものは？」「糞尿処理のスマート化は？」などの積極的な質問や意見が交わされました。

研修会後の交流会では、九州酪農青年女性会議の小園千弘顧問による乾杯に始まり、カラオケ熱唱で美声を響かせたり、地元福岡県から「よさこい」のアトラクションで会場は大いに盛り上がり、九州沖縄各県の酪友同志の親睦が更に深まった研修会となりました。

(M.Y)



▲ 講師 平子誠先生



▲ 講師 窪田力先生



▲ 研修会風景

乳牛への油脂給与

～ エネルギー源だけではない～

全酪連は2020年2月にミシガン州立大学からアダム・ロック博士を招聘して、全国4会場にて全酪連酪農セミナー2020を開催いたします。同博士は、乳牛への脂肪酸給与に関する研究を行う一方、生産現場にも深く関わっており、研究成果の生産現場への普及に力を注がれています。今回のセミナーでは、脂肪酸の乳牛への給与や乳牛の脂肪酸代謝の最新の知見を基礎から応用まで幅広く紹介します。ワークショップでは、脂質給与に関する研究の最新情報と乳脂肪低下のトラブル・シューティングなどについてご紹介します。ぜひご参加ください。

講師紹介

アダム・ロック 博士

ミシガン州立大学
農学部畜産学科 准教授



- | | |
|------|--|
| 学歴 | <ul style="list-style-type: none"> ●1997：英国・ノッティンガム大学卒業 ●2001：同大学院で博士号取得 |
| 職歴 | <ul style="list-style-type: none"> ●2001-2003：ノッティンガム大学 博士研究員 ●2003-2006：コーネル大学 博士研究員 ●2006-2009：バーモント大学 助教授 ●2009-2014：ミシガン州立大学 助教授 ●2014- 現在：同大学 准教授
(業務内容：研究6割、普及4割) |
| 研究分野 | <ul style="list-style-type: none"> ●乳牛における脂肪酸の消化吸収と代謝 ●戦略的な油脂添加剤の使用 ●乳脂肪低下と乳脂肪生成のメカニズム ●生産性や人への健康に影響する生理活性脂肪酸 |

酪農セミナー 2020

序章 イン트로ダクション

第1章 脂肪酸とは何か？

- ・脂肪酸基礎、脂肪酸とは？
- ・飼料中脂肪酸分析の重要性 他

第2章 乳牛の脂質消化と代謝

- ・ルーメン内代謝とその影響
- ・脂肪酸の消化吸収と生体利用 他

第3章 乳脂肪は如何にして合成されるか 我々は如何にしてそれを最大化させるか

- ・乳脂肪の原料と季節の影響
- ・乳脂肪低下の生物学
- ・乳脂肪低下のトラブルシューティング 他

第4章 脂肪酸添加の可能性

- ・市販脂肪酸サプリメントの製品例
- ・脂肪酸サプリメントの効果
- ・産褥牛への脂肪酸給与 他

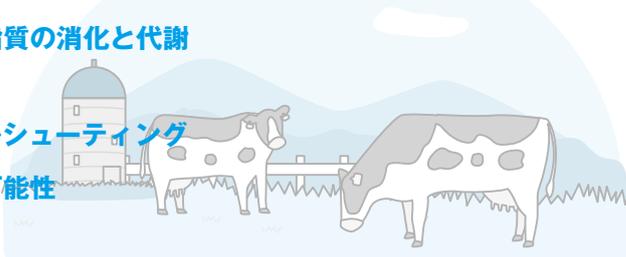
ワークショップ 2020

WS 1 乳牛における飼料中脂質の消化と代謝

WS 2 乳脂肪の合成 乳脂肪低下のトラブルシューティング

WS 3 脂肪サプリメントの可能性

WS 4 脂肪酸と産褥牛栄養



開催日時と場所

※各会場とも開会は10:00、閉会は16:00の予定です。

2月25日(火)	熊本セミナー	菊南温泉 ユウベルホテル
2月26日(水)	岡山セミナー	岡山国際交流センター
2月28日(金)	札幌セミナー	ロイトン札幌
2月29日(土)	東京セミナー	ザ・グランドホール (品川グランドセントラルタワー内)
3月1日(日)	東京ワークショップ	ザ・グランドホール (品川グランドセントラルタワー内)

参加費

1名様 ¥5,000 (対象者の方)

対象

酪農家・組合役職員・公的指導機関、
あるいは研究者・獣医師・コンサルタント
の方々

お申し込み・お問い合わせは、最寄の全酪連支所まで



令和2年

各地域酪農青年女性会議 酪農発表大会

開催のご案内

開催日／発表大会

開催場所

3月16日(月)～17日(火)

第49回東北酪農青年女性会議
酪農発表大会

〈花巻温泉「ホテル千秋閣」〉

〒025-0304
岩手県花巻市湯本1-125
TEL:0198-37-2111

3月18日(水)～19日(木)

第49回関東甲信越酪農青年女性会議
酪農発表大会

〈エピナール那須〉

〒325-0302
栃木県那須郡那須町大字高久丙1番地
TEL:0287-78-6000

3月12日(木)～13日(金)

第49回中部酪農青年女性
酪農発表大会

〈十八楼〉

〒500-8009
岐阜県岐阜市湊町10番地
TEL:058-265-1551

4月16日(木)～17日(金)

第51回西日本酪農青年女性会議
酪農発表大会

〈ダイヤモンド瀬戸内マリンホテル〉

〒706-0028
岡山県玉野市渋川2-12-1
TEL:0863-81-2111

4月22日(水)～23日(木)

第49回九州酪農青年女性
酪農発表大会

〈ホテルグランドパレス諫早〉

〒854-0061
長崎県諫早市宇都町3-35
TEL:0957-24-3939

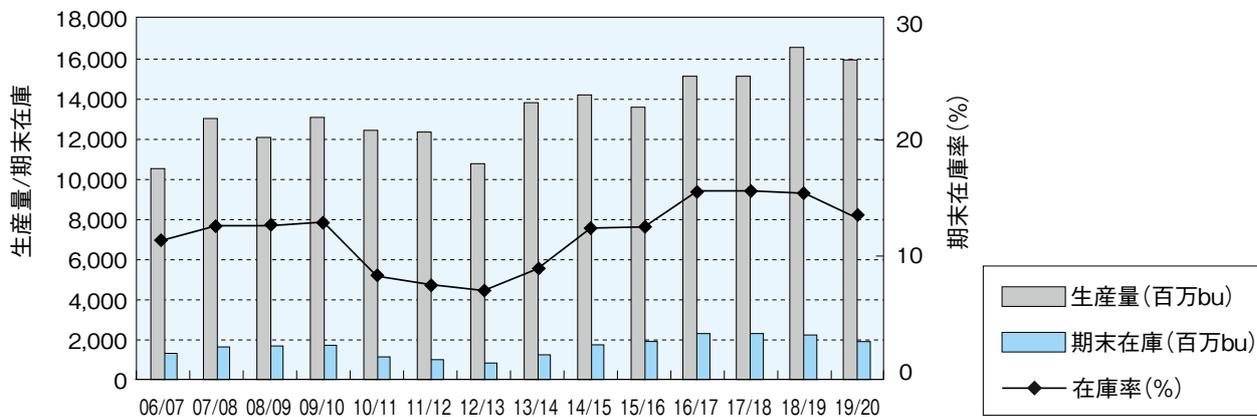
※第48回北海道酪農青年女性会議酪農発表大会については、事情により開催を見送ることとなりました。

お申込み・お問い合わせは、最寄りの全酪連支所まで

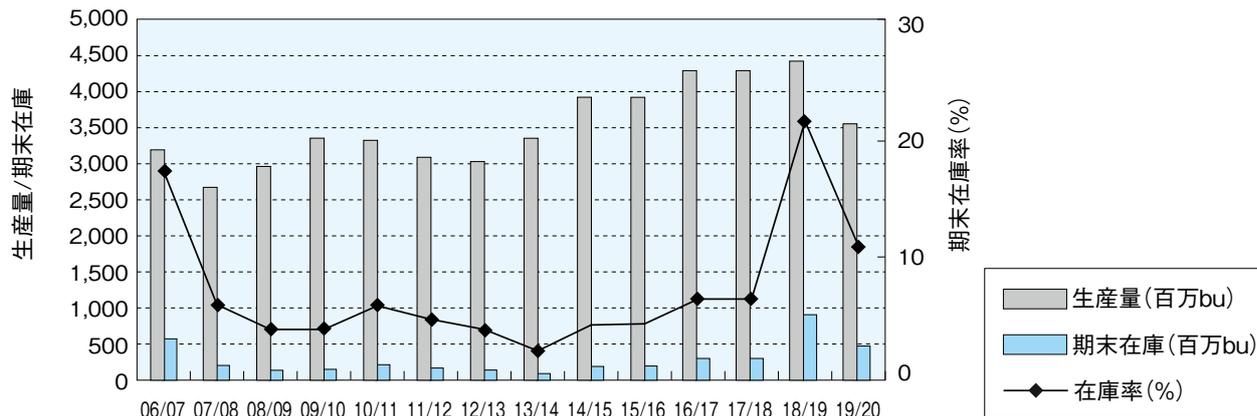


		18/19年産	19/20年産
1月10日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	作付面積 (百万エーカー)	88.9	89.7
	単 収 (ブッシェル/エーカー)	176.4	168.0
	生 産 量 (ブッシェル)	165億900万	159億6,200万
	需 要 量 (ブッシェル)	142億8,800万	140億7,000万
	期末在庫 (ブッシェル)	22億2,100万	18億9,200万
	在 庫 率	15.5%	13.4%
トウモロコシ 相場動向	1/10USDA発表での在庫率低下や1/15米中貿易合意による需要期待により、シカゴ相場はやや値を上げて推移している。今後も新穀の単収・収穫面積に変更が入る可能性があるため発表されたところから、2月USDA発表や中国の買付状況によっては波乱の可能性はある。		
大豆粕相場動向	米中合意への期待感強いものの、南米産大豆の豊作見通しもあり米国産大豆の大幅な需要増加も見込まれず、為替が円安基調にあることもあり国産、輸入大豆粕ともに相場は底堅く推移している。		
糟糠類	【一般フスマ】 年末に需給はやや逼迫したものの遠隔地への供給含め安定している。内航船運賃上昇に伴い北海道、九州地域への供給分について値上げの要請がされている。		
	【グルテンフィード】 国産グルテンフィードとグルテンミールの需給は引き続き逼迫している。年明け後も各工場定修に入るため2月いっぱいまで逼迫状況が続き、それ以降については東京五輪に向けた需要を見込み需給は緩和される見通し。		
海上運賃	12月の海上運賃は下落、1月に入り反発。昨年末は環境規制発効が年明けに迫る中で、規制前の燃料を使い切るべく航海に踏み切る船主が一定数おり、クリスマス休暇も重なり需要が限定的だったことから、海上運賃は下落。一方で、年明けからは環境規制の本格施行により燃料供給がタイトになっていることに加え、旧正月前の中国の駆け込み需要があったことで反発に転じている。		

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移





輸入粗飼料の情勢

令和2年1月

北米コンテナ船 フレート	2020年1月1日から重油に含まれる硫黄に対する環境規制が始まりました。各船社はLow Sulphur Compliance Charge(LSFCC)の導入を開始しています。環境規制に対する各船社におけるコストは一律ではないため、チャージの金額も船社ごとに異なりますが、当チャージ増加分の製品価格転嫁は避けられない状況です。
ビートパルプ	【米国産】 2020年産のビート大根の作付面積の中で収穫できなかった面積は約125,000エーカーと推定されています。この減少分をビートパルプに換算すると約122,500MTが失われたこととなります。ミシガン州では圃場での凍結によって廃棄した数量は少なく、大半のビートは適正に保管されながら、今後の作業に向けて順調に進捗しています。ノースダコタ州東南部では、悪天候の影響により作付面積の約7%で収穫を断念しています。このためビートの収穫量は当初予測を約26%下回る見通しです。ミネソタ州中南部では、収穫されたビート大根は保管中の温度上昇によるダメージを避けなければならないという課題がありますが、慎重な管理により今のところ品質を良好に保っています。
アルファルファ	<p>【ワシントン州】 主産地であるコロンビアベースンでは、生産者によっては先々の相場を見極めるために若干の在庫を持っているようです。現地では、米国内及び中東からの需要、また追加関税が撤廃された中国からの需要の回帰により産地相場は上昇しています。このため、多くのサプライヤーで年明けからの提示価格について強気の姿勢が見えます。端境期に向け、産地在庫がさらに減少すると相場そのものや2020年産の新穀価格にまで影響が及ぶことも考えられ、今後も注視していく必要があると思われます。</p> <p>【オレゴン州】 オレゴン州では、産地情勢に大きな変化はありません。高成分の上級品に対しての需要は引き続き強く、産地価格は高値のまま堅調に推移しています。年明けからの価格には他産地と同様にいわゆる金利倉敷料が加算されています。</p> <p>【カリフォルニア州】 産地価格は低級品においても、米国内の肥育向けの需要が堅調なことから高値で張り付いています。中国は現時点、潤沢にアルファルファの在庫を持っているものの、追加関税撤廃後、徐々に輸入量は増加しているようです。中国からの需要は高成分の良品も増えており、これらは高値で取引されています。</p>
チモシー	<p>【米国産】 産地在庫は、上級品については多くが成約済みですが、一部のサプライヤーでは中級品以下の在庫を抱えています。このため、一部価格を調整し在庫を捌く動きを見せるサプライヤーもいるようです。</p> <p>【カナダ産】 カナダ産チモシーの生産地では本格的な冬を迎えており、圃場は雪で覆われているため、19年産の収穫は終了しています。19年産は地域によって作柄は異なりましたが、アルバータ州南部のレスブリッジ地区の1番刈は収穫期の天候に恵まれたことから中-上級品が中心となりましたが、中部のクレモナ地区と北部ピースリバー地区では収穫期の降雨の影響で上級品の発生は限定的となっています。</p>
スーダングラス	2019年産の生産は終了しています。産地相場は日本からの安定的な需要を背景に総じて堅調に推移していますが、低級品については、産地周辺で肥育牛の飼養頭数が増加していること、また、昨年の台風の影響で自給飼料の生産に影響が出ている日本および韓国から低級品の需要が強まっているため、産地在庫は限定的で相場も強含みです。
クレイングラス	<p>クレインは全酪連の登録商標です。</p> <p>昨年12月15日時点の主産地インベリアルバレーにおける作付面積は22,205エーカーと前年同期比110%で推移しています。2019年産は作付面積、生産量ともに増えましたが、日本及び韓国からの堅調な引き合いにより出荷は順調で、産地在庫は低級品が多く、日本向け中心に使用される良品はほぼ成約済みとなっています。このため、産地相場は引き続き堅調に推移しています。</p>
ストロー類	2019年産のオレゴン州のストローの収穫は終了しています。今年はほとんどのストローが降雨の被害を受けました。加えて昨年の台風の影響で、自給飼料への被害があった日本、韓国の双方からの需要が堅調なため産地の価格は上昇しています。今後、自給飼料の代替になるような豪州産のストローなどの品質や価格によっては、この相場も緩む可能性はありますが、産地在庫のひっ迫感は続くと思われます。
オーツハイ	<p>【豪州産】 2019年産の豪州産オーツハイの生産は終了し、ストロー類の収穫作業が終盤を迎えています。豪州全体を通して国内需要は非常に強く、オーツハイとストローのブレンド品の出荷も増えています。</p> <p>【西豪州産】 西豪州では生育期の降水量が少なく、単収が例年よりも伸び悩み、収穫量は減少しました。収穫量は少ないものの上級品の発生が中心で、中級品～低級品に関しては発生量が少なく供給力は限定的です。収穫量が少なかったことから、国内からの需要も例年以上に強く、生産農家は中級品～低級品を高値で国内に向け販売しています。この影響で各サプライヤーは輸出向けの追加購入が困難な状況となっています。</p> <p>【南豪州産】 オーツハイの収量は例年をやや下回る状況となっています。作柄については、収穫期全般を通して天候に恵まれたことから、上級品の発生が中心となっており、中低級品の発生は限定的となっています。</p> <p>【東豪州産】 全体を通して予測よりも生育期の降雨があったため、当初の予想よりも収量を得ることができています。他の地域と同様に上級品の発生が中心となっており、中低級品の発生は限定的となっています。当地域は酪農生産地に近いこともあり、国内需要の高まりを受けて産地価格は上昇しています。豪州東部での大規模な山火事は、オーツハイなどの生産地とは異なる地域で発生しているため、生産や保管などへの直接的な影響はありませんが、国内需要動向に影響を及ぼしています。特に、ニューサウスウェールズ州及びクィーンズランド州南部では、山火事の影響により今後の国内飼料が不足する可能性も示唆され始めており、直近の需要が高まり始めています。</p> <p>豪州においても、LSFCC（低硫黄燃料チャージ）導入のためのコストは船会社によって異なります。1月出航分からチャージを導入している船会社もありますが、多くは2月出航分から導入の予定です。これに伴い2月出航分から各サプライヤーもチャージ分を価格に転嫁するものと考えられます。</p>

人事異動

新	旧	氏名
■令和2年2月1日付異動発令		
企画管理部長	購買生産指導部 購買生産指導部長	岡田 征雄
総務部 組織対策課長代理	購買生産指導部 酪農技術研究所長代理	板倉 雅治
購買生産指導部 酪農生産指導室長代理	購買生産指導部 購買推進課長	東 健太郎
札幌支所 購買推進課長 兼 釧路事務所長 兼 道北事務所長 兼 根室駐在員事務所長	福岡支所 購買推進課長	根岸 知紀
札幌支所 道北事務所長代理	名古屋支所 購買畜産課	山下 朋哉
福岡支所 南九州事務所長	札幌支所 道北事務所長	末石 光弘
総務部付外向 日本酪農政治連盟 事務局次長	総務部 組織対策課長	吉村 薫
購買生産指導部付外向 全国酪農飼料(株)鹿島工場長	購買生産指導部付外向 全国酪農飼料(株)東海工場長	三浦 徳逸
購買生産指導部付外向 全国酪農飼料(株)東海工場長	札幌支所 次長 兼 購買推進課長 兼 釧路事務所長 兼 根室駐在員事務所長	河野 巧
■令和2年2月1日付兼務・兼務解除発令		
総務部長 兼 組織対策課長	総務部 総務部長	戸辺 誠司
札幌支所 畜産課長	札幌支所 畜産課長 兼 帯広事務所長	佐々木 俊介
北福岡工場 次長 兼 原料課長	北福岡工場 次長 兼 総務課長 兼 原料課長	金野 涉
■令和2年2月1日付昇格・兼務発令		
購買生産指導部長 兼 購買推進課長 兼 酪農生産指導室長	購買生産指導部 副部長 兼 酪農生産指導室長	山崎 正典
購買生産指導部 副部長 兼 飼料製造課長	購買生産指導部 飼料製造課長	饗場 克也
札幌支所 購買推進課長代理	札幌支所 購買推進課	大野 貴弘
札幌支所 帯広事務所長	札幌支所 帯広事務所長代理	鈴木 孝明
仙台支所 購買畜産課長代理	仙台支所 購買畜産課	栗田 淳一郎
名古屋支所 次長 兼 購買畜産課長 兼 指導組織課長	名古屋支所 購買畜産課長 兼 指導組織課長	炬口 浩司
福岡支所 次長 兼 酪農課長 兼 指導組織課長	福岡支所 酪農課長 兼 指導組織課長	町田 篤史
福岡支所 購買推進課長	福岡支所 購買推進課長代理	前田 遼太
北福岡工場 総務課長	北福岡工場 総務課長代理	牧之内 真智子
購買生産指導部付外向 全国酪農飼料(株)鹿島工場 品質管理課長	購買生産指導部付外向 全国酪農飼料(株)鹿島工場 品質管理課長代理	八木 小百合

価格状況 ▲……強含み ▲……やや強含み →……横這い ▼……やや弱含み ▼……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	40~47	▲	札幌管内の1月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で104.6%、累計で99.4%、苫小牧管内月計で101.3%、累計で98.9%の実績となっております。2月の初妊牛動向といたしまして、4月~5月分娩予定中心で動くものと思われれます。1月の同地域の乳牛市場はやや強含みの相場展開となりました。今後春産みを求める動きが、さらに活発化する事が予想され、庭先購買で選ぶ中クラス以上の初妊牛もやや強含みの動きとなると予想されます。初妊牛資源としての出回り頭数は他の地域と比べますと少ないですが、優良な成績付きのものも出てくる地域ですので、ご希望がございましたらお問い合わせをお願いします。
	初妊牛	77~87	▲	
	経産牛	50~60	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	40~50	→	根釧管内の1月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で101.4%、累計で100.5%、中標津管内月計で103.8%、累計で102.9%の実績となっております。2月の初妊牛動向といたしまして、4月~5月上旬分娩が中心で動くものと思われれます。人気の春産みを求め、1月の乳牛市場が強含みで動いたため、2月の庭先購買価格も同様のものとなると考えられます。F1腹、雌雄選別腹での価格差はなくなってきており、和牛受精卵移植腹は堅調な動きとなってきています。初妊牛相場に連動し経産牛も堅調に推移すると思われれます。都府県からのお問い合わせやご注文が増えてきております。ご希望の際は早目のご相談・ご注文をお願いします。
	初妊牛	75~85	▲	
	経産牛	50~60	▲	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	43~50	▲	帯広管内の1月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で103.1%、累計で103.5%の実績となっております。2月の初妊牛動向といたしまして、4月~5月分娩予定中心で動くものと思われれます。1月の道内各地域の乳牛市場での初妊牛価格が上がり、育成牛も高騰したため、2月の帯広管内の庭先購買もやや強含みで動くものと予想されます。初妊牛資源としては、F1腹・雌雄選別腹の出回り頭数は多く、十分に確保できるものと思われれます。価格につきましては、雌雄選別腹と比較するとF1腹の方が高い傾向にありますが、雌雄選別腹の価格が上がってきており、その価格差は無くなってきている状況です。また、初妊牛価格が上がると、連動して経産牛の需要も高くなることから、経産牛価格もやや強含みの相場展開になるものと思われれます。
	初妊牛	77~87	▲	
	経産牛	52~62	▲	
道北管内	育成牛(10-12月令)	40~50	▲	道北管内の1月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で103.2%、累計で100.4%、北見管内では月計で101.0%、累計で101.2%の実績となっております。2月の初妊牛動向といたしまして、4月中旬~5月分娩が中心で動くものと思われれます。例年通りの春分娩需要と道内の新規就農・規模拡大による需要が依然として堅調な為、2月の庭先購買価格はやや強含みで動くものと思われれます。初妊牛の資源頭数は昨年に比べて増えていますが、F1腹・雌雄選別腹ともに引き合いが強い状態が続いています。また、春分娩可能な育成牛・経産牛も同様に引き合いが強くなっており、ともにやや強含みの相場で動くものと思われれます。
	初妊牛	75~85	▲	
	経産牛	47~57	▲	
道内総括	育成牛(10-12月令)	43~53	▲	道内の1月中旬までの生乳生産量前年比は102.6%、累計で102.1%の実績となっております。例年より積雪量が少なく、農作物への影響が心配されるようになってきました。2月の初妊牛動向といたしまして、4月~5月分娩が中心となり需要が高まる事が予想されます。道内各地域の初妊牛相場は堅調に推移しており、F1腹と雌雄選別腹の価格差も無い状況になってきています。道内外のギガファームの購買意欲も続いており、今後も相場は堅調に推移していくと思われれます。初妊牛導入のご予定がございましたら、早目のご相談・ご注文をお願いします。弊社と致しましては、相場動向に注視しながら庭先選番購買を中心に安定的に搾乳素牛を供給していきますので宜しくお願い致します。
	初妊牛	77~87	▲	
	経産牛	50~60	▲	

今月の表紙

今月の表紙は「第10回酪農いきいきフォトコンテスト」(第48回全国大会にて開催)で応募頂いた作品『あら、新入社員?』(茨城県 安孫子健一氏 撮影)です。



編集後記

- 今年是全国的に暖冬と言われておりますが、朝晩の気温差が激しい日が続いております。皆様、体調管理に十分お気をつけ下さい。

令和2年2月10日発行(毎月1回10日発行)

全酪連会報 2月号 No.653

- 編集・発行人 戸辺誠司
- 発行 全国酪農業協同組合連合会
〒151-0053 東京都渋谷区代々木一丁目37番2号 酪農会館
TEL 03-5931-8003 <http://www.zenrakuren.or.jp/>

スモーク
チーズ 40th



Produced in Sayama

今月の

らくのう

こどもギャラリー 入賞作品紹介



うしだいすき

筑前町中津屋幼稚園(九州)3歳 湯浅 成菜

今月の入賞作品は…

筑前町中津屋幼稚園(九州)3歳の湯浅 成菜さんの作品です。

色えんぴつで牛さんを描いた作品。色あざやかで線ものびのびとしてバランスが良い、ピンク色の体が可愛らしいですね。まるで抽象画のような芸術的な作品に仕上がりました。見ていて気持ちがうきうきしてくるような楽しい作品です。



※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第46回らくのうこどもギャラリー」で全国683点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議